

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100590		
法人名	医療法人社団あさひ会		
事業所名	グループホーム きぼうの家 (1階)		
所在地	北海道釧路市浦見5丁目3番4号		
自己評価作成日	令和 4年11月30日	評価結果市町村受理日	令和 5年2月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0194100590-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和4年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の個性を尊重し、これからの人生も豊かに過ごしていけるよう、生活の中で役割や楽しみを見つけていく支援をおこなっています。
 新規開設より1年が経過し、入居者様、ご家族、地域の方々、従業員ともになじみの関係を築いていけるよう努力しています。入居者様の不安を少しでも和らぐことができるよう、個々に寄り添った支援をおこなっています。
 感染症の終息の見通しが立たない現在、施設の中で何ができるか意見を出し合い、レクリエーションに反映させています。
 また、日々の体調観察に留意し、入居者様が安心・安全に暮らしていけるよう、法人内や協力医療機関との連携を図っています。
 従業員育成のため、他職種との意見交換や講習会・研修会に積極的に参加し、施設内研修に活かしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は令和3年4月に開設した木造2階建て2ユニットのグループホームで、閑静な住宅街の高台にあり、津波の影響を受けづらい場所に立地している。開設間もないところから設備等も新しく、職員もすがすがしい気持ちで日々の支援にあたっている。介護に関する経験豊富な管理者のもと職員とのチーム連携が取れ、職員の責任感も強い。職員は法人内の各委員会に所属して、研鑽を積むなど支援意識の向上がみられる。法人運営者は医師で、グループ企業に病院があり、医療機関との連携がある。法人内の5つの委員会を、それぞれ職員リーダーの持ち回りで開催している。居間・食堂は一体的で、陽ざしが入り明るく、こまめな換気や温度、湿度に配慮している。季節に合わせた装飾品を利用者と一緒に作り、飾るなど季節感を味わっている。職員は明るくて優しく、利用者の抱える不安を和らげるよう、個々に寄り添った支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲示し、意識の共有に取り組んでいる。定期的に職員会議にて理念がケアに反映されているか話し合い、意識向上に繋がるよう努力している。	理念を玄関に掲示している。毎月の研修には理念を取り上げて研修をしている。定期的に職員会議で理念が支援に反映されているか話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しているが、新型コロナウイルス感染症の影響で行事は中止されている。近隣のお宅や企業と敷地内を共有しているため、菜園作業時や散歩の時には挨拶を心掛けている。	開設時から町内会に加入しているが行事には参加できない状況である。事業所周辺の散歩やゴミ拾いの時には地域の方と挨拶を交わすなど地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族や相談者、または地域包括支援センターの呼びかけで看護学生の見学を受け入れ、認知症への理解を深めていただけるよう、相談やアドバイスをおこなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、民生委員、町内会、協力薬局、ご家族代表、当法人理事、職員で委員会が構成され、意見や要望を伺っている。コロナ禍で書面開催が続いているが、連携を取り合いながらサービス向上に努めている。	運営推進会議はコロナ禍により、書面会議で開催している。事業所と看護専門学校生、地域包括支援センターの参加のもとSOSネットワーク模擬訓練を実施し、職員、参加学生の介護サービスへの向上につなげることが出来た。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故案件が発生したり、運営で不明な点がある時は担当者の方と情報共有し、適切なアドバイスをいただいている。予防接種等に関して円滑に準備を進めることができるよう、密に連携を取り合っている。	開所間もない事業所のため、介護保険法の運用や事業所運営、事故発生事案等に伴う対応について、市担当者とは頃から連絡を密にとり、情報共有しながら指導、助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けた委員会を設置し、身体拘束防止に努めている。定期的に研修をおこない、職員一人ひとりの意識が高まるようケアに取り組んでいる。	定期的に開催する「事業所内身体拘束廃止委員会」でユーチューブの活用や外部研修会での資料を使用した研修を実施している。介護保険法で示されている拘束事例以外の対応を話し合っている。例えば、通路に置いている椅子・ベッド柵の開閉は身体拘束にあたるのか等、職員間で協議し、方向性を出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会の参加や施設内研修にて学ぶ機会を設けている。具体的な事例を検討したり、虐待に繋がる言葉や態度の理解を深め、職員同士声を掛け合いながら虐待防止に取り組んでいる。		

グループホーム きぼうの家（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の活用実績はなし。入居相談の際に他事業所より問い合わせがあり、今後活用できるよう準備をすすめる必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず契約内容、重要事項を説明し、利用者様、ご家族に不安や疑問点がないか確認をおこない、十分な信頼関係を構築できるよう丁寧な対応を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日々の暮らしの中、ご家族とは来訪時や電話連絡時にコミュニケーションを大切に、意見や要望をいただいている。また、通信を発行し毎月の活動報告をおこなっている。	家族からの日用品の届け出等を職員が窓口になり、家族とのコミュニケーションを大切にしている。家族に職員の名前を覚えてもらうなど良好な協力関係を築いており、家族からの意見、要望を運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中や、職員会議の中で意見や提案を聞いている。委員会担当者を決め、意見をまとめやすいよう体制を工夫している。また、定期的に個人面談をおこない、小さな事でも相談しやすい機会を設けている。	事業所内には5つの委員会があり、委員会担当者の持ち回りで開催し、意見を纏めやすいように工夫している。会議の結果を管理者に報告する際、職員から活発な意見等が出される。又、必要に応じ個人面談で意見・要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績や保有資格による給与水準があり、評価や勤続年数による昇給等、個々の努力が反映されている。希望に沿った勤務ができるよう配慮している。担当の委員会を設け、各自やりがいや向上心を持って働くことができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を充実させている。職員一人ひとりの技量を把握し、外部研修を受ける機会があれば積極的に参加できるよう働きかけている。個人目標を設定してもらい、自身の課題に沿って業務に努めていけるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡協議会や研修会などに参加し、同業者と交流を図っている。また、法人内の他施設と情報交換をしながら、共にサービスの質を向上させていけるよう努力している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や見学時にご本人から不安なことや要望をゆっくり傾聴している。何度でも相談に応じ、ご本人の思いを受け止め、安心・納得して利用ができるような関係づくりに努めている。		

グループホーム きぼうの家（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や見学時にご家族が困っていることや不安、要望等を伺い、状況を把握しながら具体的なケアの提案や説明をし、丁寧な対応を心掛けている。ご家族の思いを受け止め、安心・納得のいくまで相談を受け付けている。			
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の状況を把握し、その時に適したケアを提案している。地域包括支援センターや他事業所と連携を取り合い、ご本人に合ったサービスを提供できるよう真摯な対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	多くの「人に迷惑を掛けたくない」という利用者様の思いに寄り添い、得意なことやできることを見つけ出し、家事などを一緒におこないながら個々に役割を持ち、暮らしを共にする関係を大切にしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院時や来訪時、電話連絡時に近況報告をし、健康状態や生活の様子を共有している。些細なことでも相談し合える関係づくりに心掛けている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、知人や馴染みの人と触れ合う機会が持てるよう配慮している。毎月、自宅外泊を楽しみにされている方もいて、なるべく入居前の生活を継続できるよう対応に努めている。	コロナ禍における馴染みの関係継続のために感染レベルに応じた面会方法を決めて実施している。面会に来れない家族等には事業所発行の「通信」を通じて利用者の近況を知らせるなど関係継続の支援に努めている。	事業所が取り組んでいる「通信」には馴染みの関係継続の工夫がされている。これらの工夫を基に更なる支援向上に繋がることを期待したい。	
21		○利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の性格や症状を把握し、互いに交流が持ち楽しみを持てるよう、席の工夫や家事活動、レクリエーションをおこなっている。職員が間に入り、孤立せず共に暮らす家族として共同生活を送れるよう支援に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組みサービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でもいつでも相談に応じる事を伝え、築いた関係を大切にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に今までの暮らしの様子を具体的に伺い、日々のケアに活かしている。日常の会話の中からもどのような暮らしが良いか、思いや意向を汲み取り、記録に残し情報を共有している。	入居時に利用者の暮らしや様子を聞き、日常の会話等から思いや希望、意向の把握に努めている。仕事を希望する利用者には事業所内の清掃をしてもらうなど、仕事への喜びと意欲を持っていただいている。		
24		○これまでの暮らしの把握一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談、入居時に聞き取りや質問形式のシートに記入していただき、これまでの暮らし方や生活環境の把握に努めている。これまでの支援関係者による情報提供もいただき、サービス利用経過等も把握している。			

グループホーム きぼうの家（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況を観察し、関わりを持ちながら記録に残している。朝夕の申し送りにて情報共有をし、必要時はカンファレンスを実施している。					
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向や要望を取り入れたケアプランの作成に努めている。定期的にケアカンファレンスをおこない、課題やケアの見直しをおこない、現状に合ったケアプランを作成している。	介護計画は2～3か月毎に見直ししている。ケアマネージャー・管理者・職員とともに、利用者、家族の意向を反映させ、職員の気づき等も参考に話し合い作成している。状況に変化があればその都度見直ししている。				
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を個別に記録している。小さな気づきや工夫を職員間で情報共有できている。朝夕の申し送りや連絡ノートを活用し、より良いケアの実践に活かしている。					
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望にできるだけ応えることができるよう努めている。通院同行が困難なご家族には法人内や協力医療機関への往診に切り替えたりと、その時のニーズに合わせた柔軟な支援をおこなっている。					
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や地域農家との連携や、地域のボランティアによる慰問演奏等で日々の楽しみを持って豊かな生活ができるよう支援している。					
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を大切にしながら、ご家族に受診同行をお願いしている。受診時は経過や生活の様子等の情報提供をおこなっている。法人内の医療機関と協力しながら、必要時は往診をおこない日々適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医との関係を大切に、利用者・家族に寄り添った支援をしている。かかりつけ医受診の際は家族の同行を基本にしているが定期的な通院が困難な場合や緊急時の対応が必要な時は事前に家族との話し合いをしている。				
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師と医療連携体制を図り、健康管理や気になる事の相談をおこなっている。また、訪問看護を利用している利用者様の生活の様子は看護師に伝え、適切な支援ができるようアドバイスを受けている。					
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご家族や医療機関と連携を図り、適切な情報提供に努めている。随時経過を聞き取り、退院後の生活に向けて医師、看護師、医療相談員、ご家族との情報共有、連携をおこなっている。					
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りについて指針を作成し、入居時にご本人、ご家族の意向を確認している。必要な時が来たら随時話し合いの場を設け、できる限りの対応を検討する。医療機関との連携を図るよう努める。	「重度化、看取りについての指針」を作成し、入居時に利用者、家族の意向を確認し、説明している。必要な時が来たら本人、家族、医師、看護師などと話し合い方針を共有して希望に添えるよう取り組んでいる。				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応や事故発生時マニュアルを作成し、初期対応に備えている。救急搬送時に的確に情報提供ができるよう、服薬状況等の情報ファイルを作成している。理解はしているが、実践的な訓練が必要。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	災害時に迅速な行動が取れるよう、利用者様と共に避難訓練を実施している。備品庫と屋外物置には災害時用備蓄品を準備し、もしもの時に備えている。町内会との合同避難訓練はコロナ禍で延期になっている。	町内会との合同避難訓練はコロナ禍で延期になっているが事業所内での避難訓練を実施している。災害時対応品（屋外テント・長テーブル・パイプ椅子・ごとか・ガスコンロ・水及び食料・ランタン・毛布など）を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個性を尊重し、一人ひとりに合った声掛けやプライバシーに配慮した対応をおこなっている。プライドを損ねないよう、言葉づかいには特に配慮し、職員間でも注意し合うことができる環境づくりに努めている。	事業所内での「身体拘束廃止委員会・新人教育委員会」において具体例をもとに人格の尊重とプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。職員間で注意し合う環境作りに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のコミュニケーションの中から、ご本人の思いを傾聴している。自己決定ができるよう声掛けを工夫し、希望を尊重できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを尊重することを理念に掲げ、一人ひとりのペースや体調を把握し支援をおこなっている。できる限り希望に沿えるよう、日々の生活に楽しみを持って過ごしていける支援をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人のこだわりや好みを尊重しながら清潔を心掛け、季節や場所に適した衣類のアドバイスをおこなっている。月に1度訪問理美容の利用や、女性たちには好きなネイルや化粧を楽しんでいただけるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや禁忌食を把握し、季節のものを取り入れたり、菜園と一緒に収穫したものを料理に使用している。利用者様ができる範囲で野菜の皮むきや食器洗い等、準備や後片付けを職員と一緒にこなしている。	利用者の喫食が楽しみなものになるよう席替えなどの配慮をしている。飲み込みがづらい利用者には職員がついて食事介助をしている。食欲のない利用者には時間帯をずらす等の対応をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量をチェックシートを用いて情報共有している。その人の状態に合った食事形態を用意し、栄養を十分に経口摂取できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の口腔ケアを実施している。定期的な歯科往診で、歯科衛生士による口腔衛生管理を徹底している。利用者様本人や、職員に対して個々に合った適切な口腔ケアの指導をおこなっている。		

グループホーム きぼうの家（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートを用いて一人ひとりの排泄パターンを把握し、適時に声掛けや誘導をおこなっている。できる限りトイレで排泄できるよう、自立支援をおこなっている。	事業所作成の「排泄シート」を活用し、個々人の排泄パターンを把握している。トイレ誘導に際し「手を洗いに行きましょう」、「お風呂の前に用を済ませましょう」などの声掛けによる排泄の自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックシートを用いて一人ひとりの排便状況を把握し、必要時は看護師や医師に相談している。水分摂取の方法を工夫したり、毎日の体操で便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表を用いてしまっているが、週に2回程度の入浴を楽しんでもらっている。一人ひとりの好みに合わせた入浴セットを使用し、入浴を楽しめる支援をおこなっている。	入浴は週に2回目安にしている。人手不足の時は管理者・専属調理員の応援を得て、業務に支障をきたさない様、支援している。体調不良等の利用者には日時・時間帯を変更して一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やリズムに合わせ、ご家族様の協力のもと、自宅で過ごされていた雰囲気のままの居室づくりに努めている。ADLや体の状態に合わせた寝具等の相談やアドバイスをおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの既往歴、内服薬の用法、副作用について理解している。症状の変化を観察し、記録に残し必要時にはかかりつけ医や看護師に報告、相談をおこなっている。与薬時はダブルチェックをおこない、安全に服用してもらえるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活習慣を継続できるよう支援し、役割を奪うことのないよう見守りをおこなっている。掃除、菜園の管理や裁縫、音楽鑑賞等それぞれの趣味活動を続け楽しんでいただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で自由な外出には制限があるが、暖かい日は近所を散歩したり、菜園で野菜の収穫を一緒におこなっている。ご本人の希望で毎月自宅へ外泊し、好きな時間を過ごしている方もいる。	外出制限がある中、ユーチューブでの模擬体験旅行を楽しんでいる。特に季節に合わせて花火大会・桜見・イルミネーション等が好評で、季節感も感じ外出している気分を味わっている。天気の良い日には事業所周辺を散歩したり、職員と一緒に菜園での収穫を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な利用者様が多く、金庫にてお預かりをしている。買い物や必要時には希望を伺いながら自由に使えるよう支援している。		

グループホーム きぼうの家（1階）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話を掛けたり、掛かってきた際にご本人に電話を替わりお話をさせていただいている。携帯電話で居間で自由に電話を使用している利用者様もいる。届いた手紙は必ずご本人に手渡し、希望時はこちらからも手紙が出せるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	感染症対策でこまめに換気し、室温や湿度に配慮しながら居心地の良い環境整備に努めている。季節に合わせた装飾を一緒に作り、四季の移り変わりを感じながら過ごしていただいている。	居間・食堂は一体的で、陽ざしが入り明るく、空調設備による室温・湿度・換気をこまめに管理している。季節に合わせた装飾品を職員と一緒に作り、展示して季節の移り変わりを楽しんでいる。利用者間でのテレビ番組調整には職員が入るなどの支援をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士と一緒に過ごせるよう、食卓の席の配置等を工夫している。リビングにはソファがあり、外を眺めながらゆっくりと過ごされている。居室で過ごす事が多い方には訪室、声掛けを多くし、孤立しないよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や物、馴染みの物を持ち参りいただき、居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。自宅同様にカーペットを敷き、床でくつろいで過ごされている方もいる。	クローゼットが備え付けられ、家族と相談して使い慣れた家具や馴染みの物を持ち込み、本人が安心して居心地よく過ごせるよう工夫している。パッチワークが趣味の利用者に家族と職員が話し合い、居室に飾るなど本人の意向に沿った支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行できるよう、各所に手すりを設置している。一人ひとりのできることを把握し、トイレの場所やドア表札等は大きな張り紙をし、迷うことなく安心して過ごしていただけるよう工夫している。		